

学習の未来を拓く「教育リソース」

デジタルアーカイブが実現する、質の高い学びと働き方改革



かつて、地域の学びは「訪問」から始まった。

【昔】



教師が教育センター等に物理的に足を運び、地域のカリキュラム資料を入手する必要があった。これは大きな負担と制約を伴った。

【今】



高速通信の普及により、あらゆる資料が瞬時に教室へ届く時代になった。児童・生徒が自ら生成AI等を活用して情報を処理・加工し、課題解決に利用できる可能性が拓かれている。

探究学習の質の向上は、教師の負担増と隣り合わせだった。

課題 (The Problem) :

- 生徒主体の学習（オープン教育、個人学習）には、多様な資料（実物、写真、新聞、地域の人のお話など）が不可欠である。
- しかし、これらの資料の収集・整理に膨大な時間と労力がかかり、実践の大きな障壁となっていた。「教師の負担が多く、実施が困難なことが多くあった。」



デジタルアーカイブ

解決策 (The Solution) :

- 「教育リソース・デジタルアーカイブ (DA)」の体系的な整備。これが学習の質を高め、教師の「働き方改革」を推進する鍵となる。

デジタルリソースは、学習をどう変えるのか？

3つの実践事例に見る教育の変革



協働探究の進化



個別最適化の実現



体験学習の深化

Case 1 | 協働探究学習の進化（オープン教育）

「教師が集める」から「生徒が探究する」へ。



Before（従来の課題）：

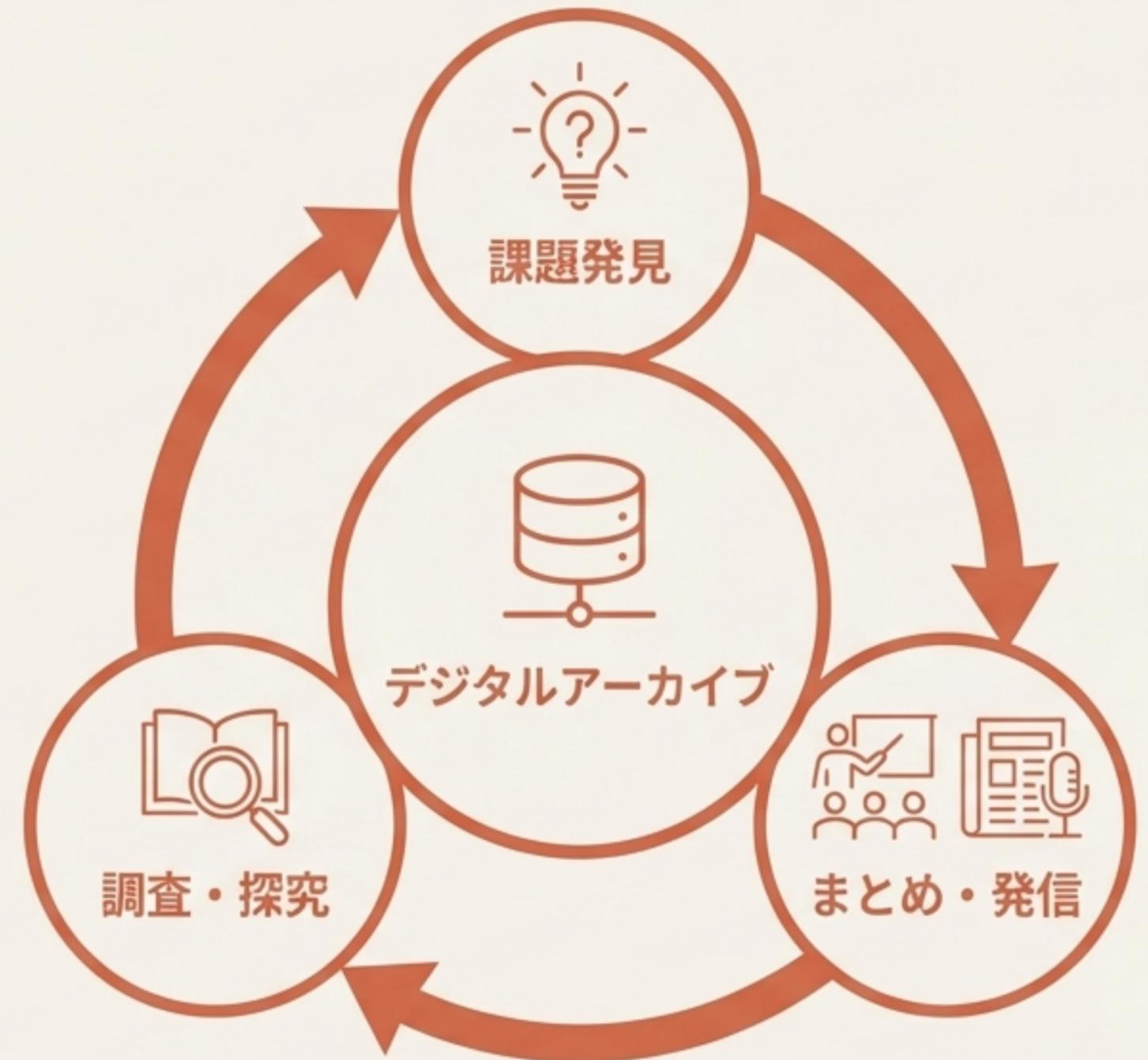
- 教師がテーマ（例：戦時中の生活）に合わせて、実物、写真、新聞記事、印刷物などを必死に収集・整理する必要があった。
- さらに、地域の高齢者に話を聞くための依頼や調整も教師の役割であり、授業準備が極めて大きな負担となっていた。
- このため、継続的な実践が困難だった。



デジタルアーカイブが、主体的な学びのサイクルを加速させる。

After (DAによる変革) :

- 生徒がGIGAスクール構想の端末を使い、DAに直接アクセスして自ら課題を発見する。
- DA内の多様な資料（オーラルヒストリー、写真、新聞等）を活用し、グループで協働的に課題を解決する。
- 教師は資料準備から解放され、学習を導くファシリテーターに専念できる。結果として、学習の質が向上し、教師の負担が軽減される。



Case 2 | 個別最適化学習の実現（高校物理の例）

生徒一人ひとりの「学びの地図」をデザインする、その困難さ。

Before（従来の課題）：

- 生徒が自身の学習計画を立てるためには、教師が事前に多種多様な教材（VTRテープ、図書、実験器具など）を網羅した「個人学習法教材一覧表」を作成・準備する必要があった。
- 多忙な教師にとってこの準備時間は確保できず、「結局計画のみに終わることが多い」のが実情で、一部の先進的な実践に留まっていた。



時間



労力



VTRテープ



無数の教材

個人学習法教材一覧表 — 自由学下冊統一

号 号	数 付	内 容 参 考	部 点	備 考	備 考	備 考
1	寄贈図書 法信了 下冊	自由学下冊（アソウの御覽） のナマステを購へてまこのも	50			
2	＊実 第1	落下運動（砂鉄配重）回転イマ ーによる重力加速度を求める	15			
3	実 第2	17世紀の書籍 4冊 斜面上をころがる時の時間を中時性 で測定	15			
4	実 第3	筆触うずにより、重力加速度を 求める	15			
5	実 第4	究極、落下運動のきや、重力加速度 を求める	19			
6	減 第	自分の日記時刻を覚える	18			
7	SG連絡冊(1)	連絡冊 自由学下冊No.1～6	16			
8	+ (15)	連絡冊A No.7～15	8-3			
9	+ (16)	連絡冊B エデアノイア29	8-3			
10	+ (17)	連絡冊C No.27～23	8-5			
11	V T R 90	落下運動A S.4-Y.2.2.6 斜面上の運動	10			
12	V T R 90	落下運動B = 11冊巻先				
13	V T R 43	落下運動C = 入札用紙10枚	15			
14	読 本 90 1	エッセーP科学史 (連絡冊) P.5-44)	10			
15	＊ 2	おもしろい物理学 P.12-183	18			
16	＊ 2	おもしろい物理学 P.12-130	18			
17	＊ 4	おもしろい物理学 P.9-02	16			
18	＊ 5	ゼンゲン・セリット物理学	20			
計			計			

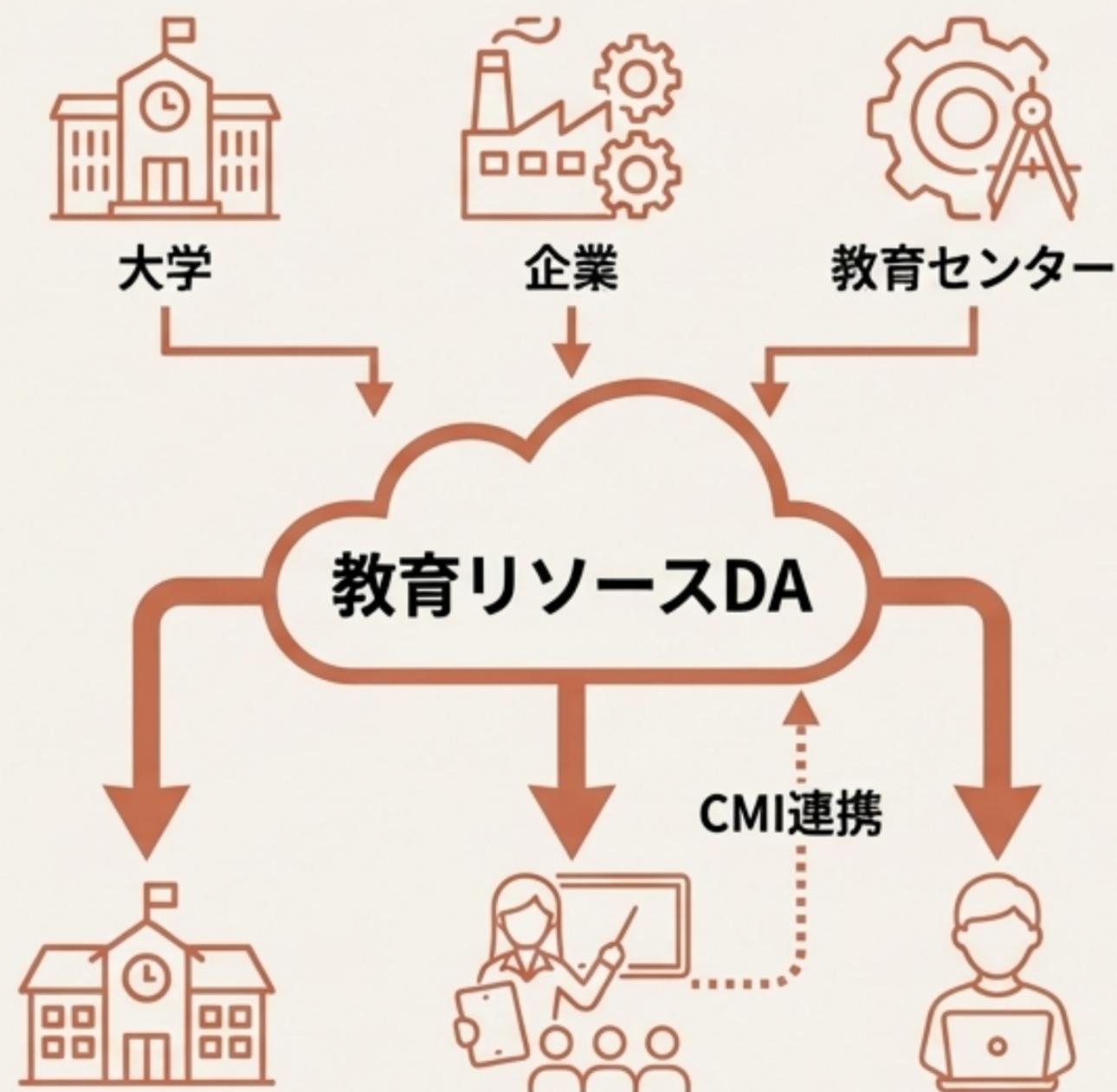
冊に巻は各巻は連絡冊である。15は連絡冊を巻、列の合計が50以上になるよりに要する。印刷する巻冊は巻冊に口をつけ、自由学下冊計
 内容のページに立て、読完、学完計票に記入し、巻冊をよめること。16巻
 読冊が決定し、学完計票ができた、先生に見せてから学習を進める
 こと。

年 度	冊 数	備 考
2 年	冊	巻 氏 B

教育リソースの共同開発が、すべての教師を支援する。

After (DAによる変革) :

- 大学、教育センター、企業、教材会社等が共同でDAに教材を蓄積・開発する。
- 教師はDAから必要な教材を検索・抽出し、容易に生徒一人ひとりに合わせた「教材一覧表」を作成可能になる。
- CMI (学習管理システム) と連携し、生徒の学習進捗を正確に把握し、個別の指導等を行うことができる。



Case 3 | 体験学習の深化（沖縄修学旅行の例）

「観光」から、課題意識を持つ「学修」へ。

- 事前学習用リソース「沖縄おうらい」は、単なる名所案内ではない。
- 歴史的背景、文化、平和への願いなど、高校生が課題を持って行動できるよう、8つのカテゴリーで沖縄を多角的に掘り下げる。



沖縄の離島



沖縄の観光



平和への願い



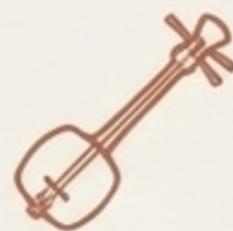
沖縄の離業



沖縄の世界遺産



沖縄の産業



沖縄の伝統文化



沖縄の自然



沖縄の生活文化

物語が、点在する知識を意味のある文脈で繋ぐ。

キーコンセプトの提示：

オーラルヒストリーは、個々の資料（点）を結びつけ、関係性の全体像を明らかにする

「デジタルアーカイブ全体のメタデータ」

として機能する。

具体例：

エイサーの歴史：宜保榮治郎氏の語りは、エイサーという踊りの背景に、1603年に袋中上人によって伝えられた浄土宗や念仏踊りとの繋がりがああることを明らかにする。個別の写真だけではわからない文脈を提供する。

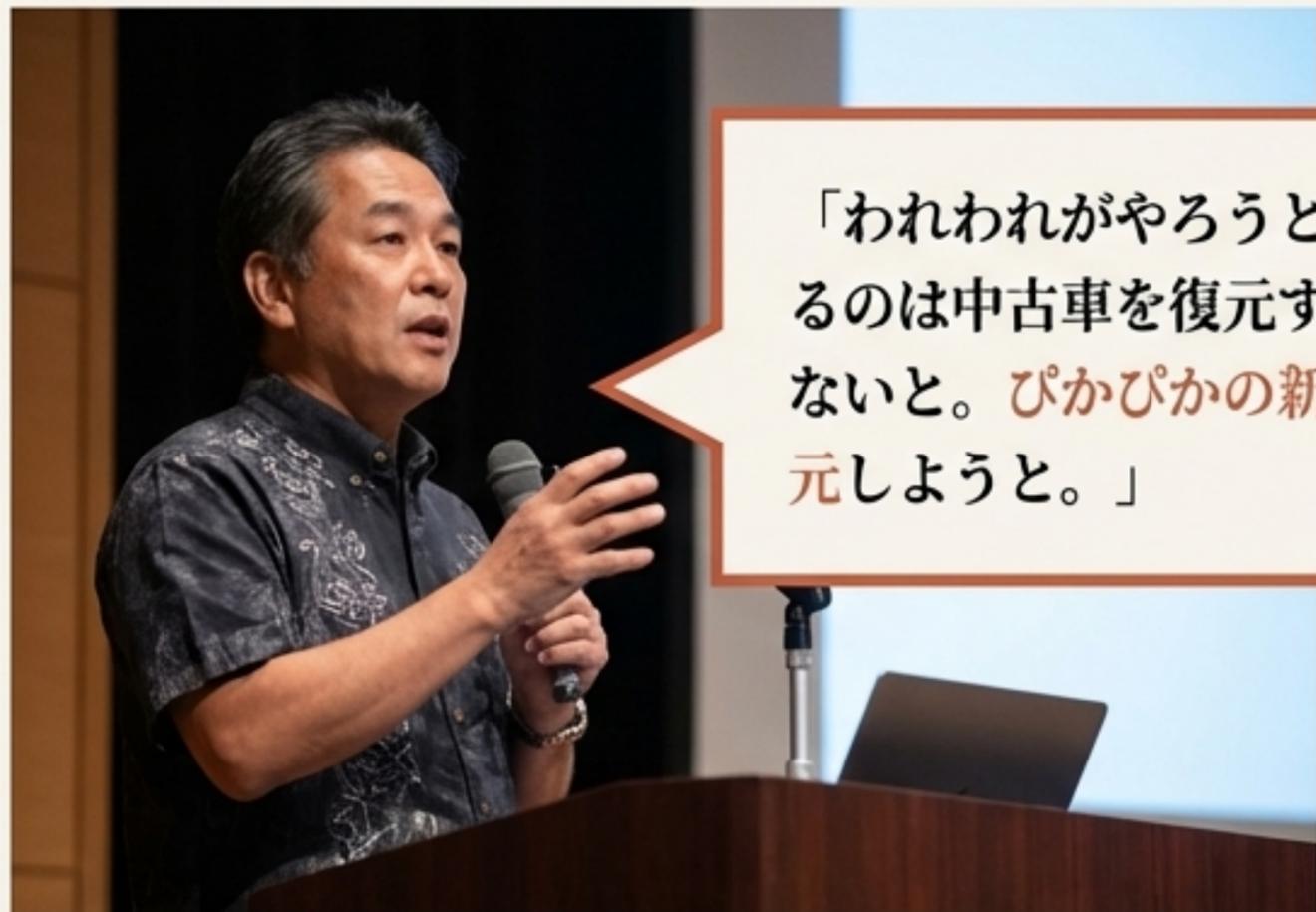


念仏踊りとの繋がり

浄土宗の伝来



当事者の「声」が、歴史に命を吹き込む。



「われわれがやろうとしているのは中古車を復元するのではないと。ぴかぴかの新車を復元しよう。」



事例：首里城復元プロジェクト

高良倉吉氏の講演は、単なる事実の羅列ではない。「往時の首里城」、つまり琉球王国が現役で生きて呼吸していた「新車」を復元するという情熱や、膨大な資料収集の物語を通じて、プロジェクトの本質的な意味を伝える。

このような生きた声に触れることで、生徒は歴史を「自分事」として捉え、深い理解を得ることができる。

質の高いDAを、いかに構築し、提供するか。



Step 1: 提供

(Contribution)

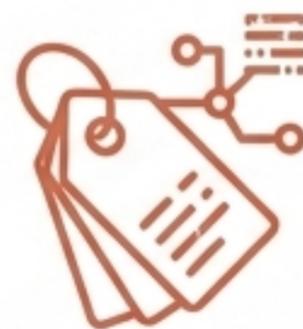
多様な機関（大学、企業、教育委員会、教師等）が連携し、教材・素材を提供する。



Step 2: 選定

(Curation)

選定委員会が内容を精査し、資料の誤りや不適切な情報を訂正。信頼性を担保する。



Step 3: 整理

(Organization)

メタデータを付与・整理し、検索性と再利用性を高める。



Step 4: 利活用

(Utilization)

各学校が教育実践で容易に利用できる形で提供する。

次なるフロンティア：生成AIとの連携

未来展望：

- 世界中の教育リソース・デジタルアーカイブを基盤とし、各教師が個別学習のための「教材一覧表」を容易に作成できる「**生成AIの教育用ツール**」の開発が期待される。
- これにより、教師はさらに柔軟で創造的な学習指導を展開でき、創造性を最大化できる。



すべては、未来を生き抜く力を育むために。

まとめ：教育リソースが拓く未来

1. 学習の質の向上：DAは、生徒の主体的・対話的で深い学びを強力に支援する。
2. 教師の働き方改革：資料準備の負担を劇的に軽減し、教師がファシリテーションなど本来の役割に集中できる環境を実現する。
3. 生涯学習の基盤：生徒が自ら課題を見つけ、カリキュラムを構成し、学ぶ力そのものを育む。これは学習社会を生き抜くために不可欠なスキルである。



ご清聴ありがとうございました。

未来の教育を共に創造するために、連携・協力を。

発表者名: [発表者の氏名]

所属: [所属機関名]

連絡先: [メールアドレス or ウェブサイト]